

生薬配合的な楽曲パタン生成系について

1 J - 1

横田 誠
電気通信大学

1. ま え が き

情動的パタン系の基礎系の一つとして、楽曲的パタン系を考えている。楽曲的パタンの生成系を、伝送工学における分布定数系における回路合成系を底に、音楽伝送工学系として、考えて行こうとしている。数理線路伝送工学系では、化学的薬劑合成系のように、原子または分子に相当する、線路素子の接続系として、目的の伝送特性に応じて、関数論的に回路合成している。

生薬的対処系とは、その基は生物系のような代謝機能のシステムに、既存の、薬効の期待のもてる、いわゆる生薬素材を試用して、その効用別に分類をし、その医療目的需要に応じる、生物的厚生系（生物的救済系）の一つの系である。ここで云う、生薬的対処系とは、既存の生物系を超えて、より一般的に、問題対処の系として考える。

音楽的線路系である、弦のような実線路系である楽器系や、楽譜パタンのような特性パタン線路系は、一般的線路系の基礎系である。楽曲系は、音楽的意味を持つ、情動的活性系や、情動的厚生系であり、情報感性的救済系の一つの系でもある。

今回は、既存の楽曲、特にその部分曲を蒐集し、これを代謝システム的な作曲、編曲的機能の人工的システムに入力し、結合撮取とか、交換排出等をし、目的に応じた楽曲パタンを生成させる。ここでも、全過程、正規化楽曲パタン系として考えることにする。

2. 生薬的素材の、正規化変換、(分類)格納系 (伝送工学系における源系系としての、生薬的生成系)

伝送工学系では、既存の、又は経験したモノ・コトに依存した系である源系系と、それとは独立に、有り得る、又は、あるべき系としての、元型系の対の系を考えている。

作曲系では、源系系を主系として、元型系を補系としていることが多い。仮に、過去に作曲されたパタンが全て、正規化されたとする。これが源系系として、特に、その内の経験系として考える。この内、当人にとって、局所的系、即ち、地方限定的な、あるいは能力を持った特定の師（間接にでも）からの師伝的な系の主系からと、その他の非局所的系とから、次の段の感受、記憶、代謝的機能系に入力される。図1の前段に、正規化楽曲パタン系による2段生薬採餌的系を示した。

On Music Patterns Composition Systems by the Use of Herb Combinations, by Makoto YOKOTA, The University of Electro-Communications.

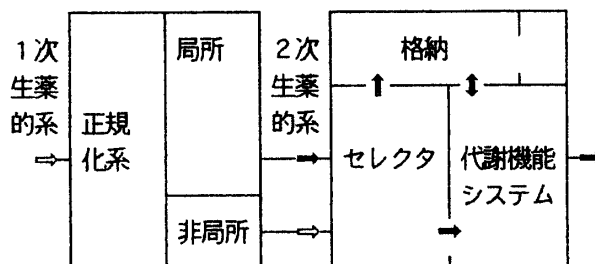


図1. 正規化楽曲パタン系による2段生薬採餌的系

3. 元型系的対応の生薬的素材の撮取パタン生成

元型系とは、「有り得る」「あるべき」系であるから、音楽的元型系とは、主に音楽的意味のあるパタンについての元型系である。それは、厚生楽曲パタン系、活性楽曲パタン系、そして、これ等のハイブリット楽曲パタン系として、美しく、感動的に等、いわゆる名曲といわれるパタンを想定して、これに沿うようにする系である。

音楽的元型系は、正規化メッシュパタン上の1音系としての素粒子系、2連音系としての原子系、メンデルレーフ表的空間を基に、3連以上の音系を、化学的合成系としての薬品や呈味素材的に、楽曲的パタン系に適用されるものとしていて、研究を進めている。今回は、この元型系の方角に対する、相補的意味での、生薬的、源系系の方角について準備的に考えて見た。

4. む す び

人間の（主に情動的感性）機能に関連づけて、人工的システムが進化を続けている。その意味で、従来の伝送工学における、線路・回路の概念を生きた方向へと展開した、伝送工学を考えている。ここでは、その基礎系として、音楽的伝送工学系を、特に、楽曲パタンの生成系について、生物的系における生薬薬理的概念を援用した。そして源系系と元型系との観点から、生薬的系としての、楽曲パタン生成系について考えて見た。

[文 献]

- 1)横田 誠: '複雑系の基礎系としての、音楽的伝送工学系について' 電子情報通信学会電気音響研究会(音響学会音楽音響研究会共催), 1997, 7, 18.,
- 2)横田 誠: '楽曲パタンの景気変動的、遺伝的生成システムについて' 電子情報通信学会秋大会, 1997, 9,
- 3)横田 誠: '曲相分類の為の基礎系としての、パタン成長分岐進行系...' 電子情報通信学会春大会, 1997, 3,
- 4)横田 誠: '複雑系としての楽曲パタン系と、その対応系について' 情報処理学会秋大会, 1996, 9,